
学校でかくれんぼ

破壊神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学校でかくれんぼ

【Zコード】

Z2329BA

【作者名】

破壊神

【あらすじ】

私がとあるサイトで投稿した話です。

(前書き)

の読みくださつもありがとうござりますー。

それではどうだ？

それはある日の事だ。もう十年以上も前の話、高校時代の事だった。俺はその頃、なぜかリア充だった。友達に誘われ、けいおん部という部活でバンドを組んだ。バンドではボーカルを勤め、メンバーはボーカルの俺、中のギター一人、ベース一人、ドラム一人の5人メンバーだ。バンドはなぜかV系のコピー・バンドで、一年生の頃はなぜか文化祭の一日目に全校生徒の前であるV系バンドの曲を披露した。（ちなみに、文化祭は2日間あり、一日目は生徒だけのお祭り、二日目は一般公開というスケジュールだ。

その頃は、V系にはまりまくった。歌詞とか音響とか厨二やん？あと、衣装とかさ。それが俺の厨二病…否、工二病を刺激した。んで、その頃は、まだ結成間もないとあるバンドにハマった。（きっかけはあるアニメのエンディングテーマ）あの頃は、とあるV系バンドバンドを目指してた。

しかし、現実は過酷。理想と現実は噛み合わない。いくら将来はバンドをやりたい！と言つても、現状はそれを許さない。まあ、俺の覚悟が足らなかつたんだろうがね。まあ、そんな事は置いといて本題に入ろう。

二年生に差し掛かった頃の話だ。バンドメンバーの友達（同じ中学の3人）と校内でかくれんぼをノリでやることになった。校舎は新校舎と旧校舎の二つあるんだが、その二つの校舎を使って、放課後にかくれんぼをした。じゃんけんをして鬼を決めると、確か、ベスのヤツが鬼になつた。俺はなぜか旧校舎へ隠れる事にした。そこからが悲劇の始まりだ。

んで、鬼のヤツが旧校舎に向かつてきたんだよね。（新校舎は4階

建て、旧校舎は3階建てで、渡り廊下は2階にある。）渡り廊下から向かってくるのを、旧校舎3階の窓から見えたんだよ。そこで俺は考えた。3階は文芸部の部活が活用している部室が多く、隠れられる所がない訳です。だから、トイレに隠れる事にした。そり……『女子トイレ』に……ね。

んで、勇気を持つて女子トイレに向かった訳よ。その時俺は、鬼がこっちに向かってくるから焦って、冷静な判断が出来なかつたんだよ。まあ、そんな感じで女子トイレに入ります。そしたら、学校内で美少女だとうたわれる同じ学年の子が居たのよ。あれはビビった。その時の反応は鮮明に覚えてる。俺「……

お邪魔します。…………」美少女「え？？」

「……と、なり、大声で叫ぼうとしたので、取り押さえようとする美少女に襲いかかった！　はい。どう見ても犯罪者です。ありがとうございます。その時俺はスネーク並のCOCをかけた。美少女の裏を取り、W口を手で抑え、もう片方の手で抱きしめるように。W体を抑えつける。そして俺は「静かにしろ。それと暴れんなよ？」美少女「コクン……」と俺の言葉に頷くの見て、トイレの個室に入った。

個室に入って鍵を閉めると、美少女は「ビクン！」って震え始めた。その時俺は、美少女を取り押さえた。トイレの個室に一人で入り鍵を閉める。あれ？　これってどう考へてもレ〇Pしようとする加害者と被害者じゃね？。と考えた。そこで俺と美少女の顔は真っ青になつた。片方はレ〇Pまがい、というか手を出さなくとも見つかつたり、チクられたら（^○^）ノオワタになつてしまい。片方はレ〇Pされるんじゃね？　という恐怖に怯える。もうさ。なんとも言えない雰囲気だった。

俺は勇気を持つて個室内で密着している美少女にどうにか弁解しようとしました。確かに俺は「すまん！今友達とかくれんぼして（「」）と今に至る経緯を話して謝罪した。（この時もCQCをかけたままで口は抑えてない。）すると美少女は、「わ、わかつたけど、話してくれないかな？」と引きながら言い出した記憶が、するとさ複数の女子がトイレに入つて来たんだよ。なぜ、わかつたかというと女子達の会話が聞こえたんだよ。

その女子達は、美少女の友達で美少女が長くトイレに居るから、心配で見に来たような感じで、女子達が「美少女（名前は伏せます）は遅いけど、どうしたんだろう？」「って聞こえてさ俺はなぜかわかつてしまつたこの女子達の会話、美少女のがトイレに居るあと、俺が理由を話して時間が結構経つてる。そこから繋がるのは…ってさ。んで、女子達がトイレに入り、個室で俺は、更に顔が真っ青www助けをこうように美少女を見るといかにも「はあ…しうがないな…」みたいな顔をして、「女子達（名前を伏せます）、ちょっと、お腹痛いから心配しないで」って言つてくれたのよ

そこで女子達は心配の声をだして、美少女は大丈夫だからつて数回会話のバトンをすると女子達は去つていつた。そこで、美少女に感謝をして出ようとする「今出て見つかつたら、私まで怪しまれるから、もうちょっと隠れてくれない？」と言い出し、俺は承諾して、美少女と会話をすることにした。

内容はバンドについてとか、文化祭とかの発表ではキャラ作つて格好よく見せてたからこりこりう事するのは意外でプライベートでは面白いね。みたいな会話。まじ、口ミコ障な俺もバンドメンバーや親しい人意外では無口キャラ貫いてたけど、欲てすごいwww美少女との会話でwwwみなぎつてきてwww初対面なのにwwwス

ラスラ喋れた

するとさwww会話に夢中で女子トイレからwww脱出するタイミングの逃しちゃつたのよねw流石に心配した女子達が先生呼んで俺達が居る女子トイレに来ちゃつたのwwwんで、美少女が言い訳を言つてくれたがwww先生が不親がつてwwwドアを開けろつて言つてきたのwww

俺達は観念してドアを開けた。そこに居た先生は、なんと…生活指導の女性の先生でした。その後、俺達意外は啞然、先生は無理矢理俺達を生活指導室に連行。いやー、参つたw俺がさ、正直に経緯を話したんよ。そして俺が全て悪い。つて言うとさ、美少女が「私が悪いんです！」って言つて、俺が話した話とは噛み合わないような事を話した訳です。内容は「私が彼を誘つた」みたいな?んで、俺が悪い。私が悪い。の言い合いになつて、流石の先生も困惑して、しううがないから両方悪いって話しになつて、二人揃つて不w純w異w性w交w遊つて事で謹慎喰らつた訳です。はい

謹慎は、初犯で学校生活では一人とも真面目だつたことで、期間は三日間だった。んで、先生に解放されて、気がついたんだ。友達を忘れて居ることにさ。んで、友達は俺がいなくて、みんなで校内を探しててさ、その時、美少女も一緒に行動してて、友達になにがあつたか説明（簡単にだが）したんだが、なぜか羨ましがられたり、俺達をからかつてた。あとから聞いたら、「付き合つてるのかと勘違いした。」って言つてた。

んで、メンバーと美少女と一緒に帰り、高校は地元でメンバーみんなはそれぞれ、帰り、美少女は電車での上下校だったから、紳士な俺は駅まで送つて行く事にした。そこで聞きそびれたが、なぜ、俺を庇つたのか聞くと「私が引き止めたのも原因で見つかつたんだからだよ」とつて言つてきて、俺は美少女に対し行つた行為を考える

と美少女の寛大な心に心が打たれて泣いてしまった。通行人などにごとかつとガン見してきたが、そんなのを気にしないで泣きじゃくつた。突然の事で美少女も驚いてたが、俺をあやしてくれた。

俺は落ち着く頃には美少女が乗る電車が出発してしまい。美少女は乗り遅れてしまつた。俺は美少女に謝罪するが、美少女は「いいよ。気にしないで」と言つたが、流石に俺は今日の出来事を思うと…ね?だから、美少女にご飯奢る事にした。しかし、地元は田舎だ。洒落た店はない。仕方ないから、駅前の定食屋に行く事にした。駅前なら、駅から近いし、乗り遅れる事はないだろう。と思つたからだ。この時の時刻は6時半だったと思う。まだ、初夏だったから外は明るかった。そこで、ご飯を食べて、雑談して、電車に美少女が乗つて出発したのを確認して、俺は帰宅路についた。

帰宅途中、家の電話番号を交換して、中学時代からいままで、女つ気がなくて、久しぶりにルンルン気分で家に帰つたが、家に帰ると鬼が居ました。そう、ママンです。学校から謹慎について連絡があつたそうな。パパンはなんか若いつていいな。みたいな事を言ってたが、ママンは、同じ女として美少女にやらかした事に対して、凄く怒つていた。まあ、手を出してなくとも、周りにはそうは思わない。改めて考えると事の重大さに気づいた。謹慎の理由を聞けば、こう思う人も居るだろ?「ヤツ(俺は)は女の子(美少女)を傷物にした」ってさ

そこからが、大変。家のママンがパパンに美少女宅へ電話するように言つて、電話した。俺は現実を見て部屋に引きこもつていたから会話の内容は詳しくないけど、パパンが美少女宅の家の場所を聞いて、謝罪しに行く事になった。向かってる最中は雰囲気が重くてや

ばかつた。んで、美少女宅へ着くと、親父さんが出て来て、家の中へ入り、俺と両親と美少女と美少女の両親というメンバーで話し合う事になった。

まず、どうしてこうなったのか？という理由を聞かれた。そこで、俺が経緯を話すと美少女が割り込んで、生活指導室の時と同じで、俺ら意外の四人は困惑して、どちらが悪いかわからなくなつた。まあ、これは両方に非があることになり、次に、美少女に手を出したか？と聞かれたが、俺は否定した。

最初は美少女の親御さんは信じてくれなかつたが、美少女の援護射撃で信じてくれた。そのあと、なんだかんだで両親達は飲み始めた。そのころの時代はいまのような冷たい時代ではなく、少し昔気質の豪快といつのか？とりあえず、親切とか思いやりの時代だ。そんなこんなで夜遅くなり、俺達は家に帰る事になった。両親は車の運転は出来るが、呑んでしまったから代行を呼んで代行を来るのを待つている最中、客間で両親達が盛り上がりってる中、美少女は俺を自分の部屋に呼んで、こんな事を言つてきた。

「今日の事でキミを意識しちゃつた。責任取つてよね？」つてね。それを聞いた俺も内心、美少女を意識していた。なんというか、COCOかけた時の久しぶりの女体の柔らかさといい、いい匂いといいさ。まあ、そんな事がきっかけで付き合い初めて、いま、俺の人生の隣に居るのが美少女なんだよね。

余談だが、その時俺は「ハーレム作るのが野望だけええの？」つて言つたら、美少女が「なら、その野望が実現出来ないくらい私が（規制）つて言ってさ。まあ、おじさんになっちゃつたがハーレム

を実現出来ないでいる。まあ、次元が違うけど、ある次元を含めればハーレムが出来てます。とりあえず、無職になつたが、今から職探して、妻と子供達を安心させて、ハーレムを作りたいと思います。

(後書き)

いやー、文章つて難しいですね(汗)

それでは、ありがとうございました!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2329ba/>

学校でかくれんぼ

2012年1月5日22時50分発行